

日本における台所・キッチンの変遷に関する研究

ー一般向け住宅雑誌の分析からー

丸橋梨那（指導教員 八尾廣）

1. はじめに

歴史的に見れば、日本は極めて短期間のうちに都市とそれに伴う住宅の発展を遂げてきた。その中で住宅の質も豊かになり、特に近年では住宅のインテリアに関する関心も高まってきた。

建築計画的には戦後は住宅不足の時代の標準化住宅の供給に始まり、イス座化やモダンリビングの導入といった時代背景がありそれに伴いシステムキッチンの導入が始まった。さらに 2000 年代以降に入り、建築家とその工夫を凝らした細かなしつらえが注目されてきている。テレビ番組や雑誌で広く紹介されるようになり、建築家とその作品が身近に感じられるようになってきた。

逆に一般の人々はどのような住宅に住みたいのか、住まいの理想像がどのように変化してきたのかという点についてはあまり把握されていないように思われる。一般の人向けの住宅紹介誌は、これから住まいを作りたい一般の人々の関心に向けた紙面作りをしているはずである。こういった誌面を対象として、その誌面に表れる住宅のインテリアの変遷を辿り、その傾向を分析することにより、一般の人々の住まいに対する嗜好の変遷を把握し、明らかとすることを目的とした。

2. 研究対象・方法

2.1. 研究対象

「2016 年版雑誌新聞総カタログ」（メディア・リサーチ・センター）を参照し、戦後から現在までに発行された一般向け住宅雑誌のうち最も発行部数の多い「住まいの設計」を研究対象とした。

創刊	1961 年	
誌名	新しい住まいの設計 Sumai no Sekkei Sumai: 住まいの設計	1961/09 - 2009/05 2009/06 - 2013/10 2013/11 -
通巻	669 号	
発行部数	50000 部	
出版社	(株) 扶桑社	
販売	書店	

本誌は毎年末に創刊特集を組む傾向があり、これから住まいを建てる人にとって最も興味関心の高い項目が選出されている。本誌の特集記事を調査したところ、キッチンが頻繁に取り上げられていることに着目した。キッチンは家族全員の生活にかかわる住まいの 1 つの中心であり、生活文化の一側面を象徴する場所でもある。一般の住まい手にとって最も分かりやすく、関心の高い場所の 1 つでもあり、それ故に一般の嗜好というものが現れるのではないかと、そこで本論では研究対象をキッチンとした。

2.2. 研究方法

研究方法は以下の通りである。

1. 全国の図書館に蔵書検索をかけたところ、関東圏内で本誌を永久保管している図書館として国立国会図書館、横浜市立中央図書館および群馬県立中央図書館の 3 件があった。これらの図書館内の蔵書やデータベースをもとに本論文の調査・資料収集を進めた。
2. 時代背景の変遷を把握するために、全特集記事（1966 年～2017 年）のタイトルが住宅のどのような側面に関する記事であるのかを分類し表にまとめた。

例)

特集タイトル
ことし家を建てる人のために13坪からの住みやすい小住宅



自然	都市環境	年齢	住まいの形態	設備	ライフスタイル	感性	敷地条件	家の形式	コスト・環境
				○		○		○	○

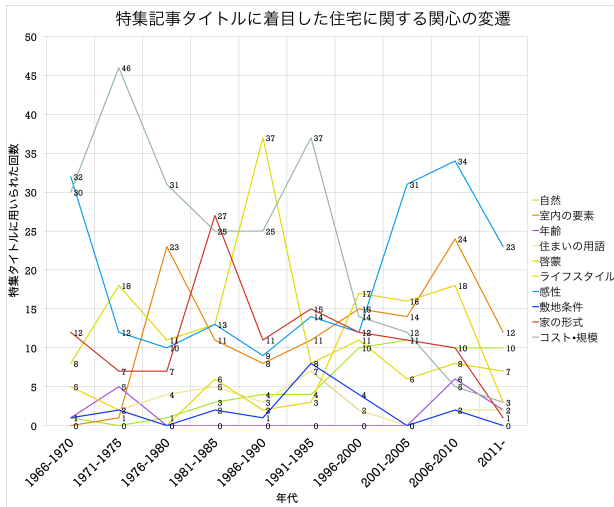
3. 雑誌『住まいの設計』の図書館で閲覧可能なバックナンバーのうち、キッチン特集が巻頭にあるものについて、キッチンの型式の変遷と時代変化の関係性についての調査をした。対象作品ごとに、キッチンの型式を 8 つに分類し表にまとめた。

4. 前述の表をもとに、その年代で最も多い型式のものを 1～3 作品選定し、作品のデータシートを作成、キッチンの仕上げ材（床・天井・カウンター台・キッチンバック）の分類を行い、表にまとめた。

5. 上記の 1.～3. で作成した表をもとに、5 年ごとの年代順に項目数を集計し、折れ線グラフを作成した。

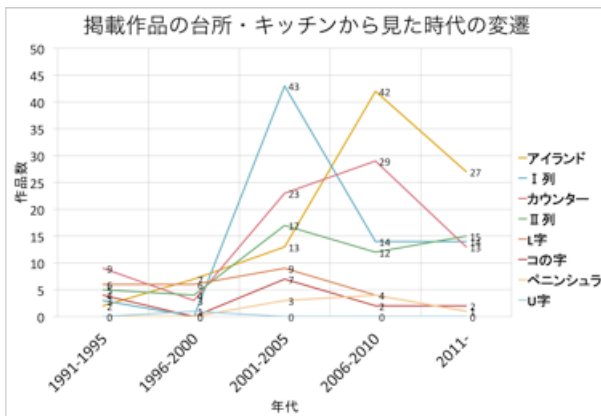
3. 結果

1.



- ① 1960-1980年代は家を建てる方法を教えるかつ啓蒙系、ローンや予算に乗っ取った家づくりを推奨する〈コスト・規模〉の特集が増加している。
- ② 1980-1990年代から地下室や付属室の充実を図る〈室内の要素〉の特集が増加している。
- ③ 1990年代-現在まではキッチンを中心とした〈室内の要素〉が増加するほか、自然共生型の住宅が注目され〈自然〉の特集も増加してきている。

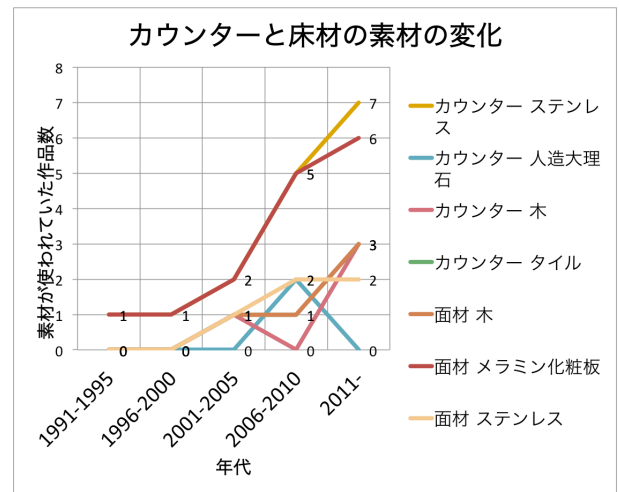
2.



アイランド	I列	カウンター	II列	L字	コの字	ペニンシュラ	U字
91	77	74	53	26	15	8	1

1990年代までは1960年代からキッチンとして定番の型であったI列型やII列型だが、2000年代からキッチンの形式がよりオープンに開放されるようになった。カウンター型からアイランドへの趣向の変遷が見られた。現在最も人気がある型式はアイランド型のような。

3.



システムキッチン導入の初期より、カウンターはステンレスなどの無機質なものから、現代では木質やモルタルなどの仕様が著しく増えている。素材の選択肢の幅が広がり、創作キッチンなどで個性を出す傾向にある。

4. 参考文献

- 1) 日本生活学会 (1999)『生活学 (第23冊) 台所の100年』ドメス出版
- 2) 小菅桂子 (1991)『につぼん台所文化史』雄山閣出版
- 3) 朝日新聞学芸部 (1995)『台所から戦後が見える』朝日新聞出版社
- 4) 山口昌伴 (2000)『台所空間学 (摘録版)』建築資料研究社
- 5) 北浦かほる・辻野増枝 (2002)『台所空間学辞典』彰国社
- 6) 暮らしの手帖 (2002)『別冊住まいの手帖 台所』暮らしの手帖社
- 7) 山口昌伴 (2006)『台所の一万年 食べる営みの歴史と未来』農文協
- 8) LEE LIVING (2006)『料理家たちのキッチン』集英社
- 9) 大平一枝 (2015)『東京の台所』平凡社
- 10) (2016)『2016年版雑誌新聞総カタログ』pp.251-258 メディア・リサーチ・センター
- 11) 建築・住宅誌 編集長インタビュー第11回「新しい住まいの設計 (扶桑社刊)」編集長 鈴木康之氏
<http://www.houseco.jp/special/interview/editor> 2016年10月30日アクセス
- 12) 海老澤 模奈人(2012)「マルガレータ・シュッテ=リホツキーの「家事の合理化」：翻訳と解題」 pp.1-13 東京工芸大学工学部紀要
<https://www.t-kougei.ac.jp/research/pdf/vol35-1-02.pdf>